

長期投資家の皆様へ

日米欧先進国の株式市場は軒並み高値圏を形成して、次なる展開を模索するボックス圏で推移しています。

日本では日経平均が 2 万円を超えて、15 年振りに時価総額が過去最高水準を更新し、米独ではダウ平均も DAX もいずれも史上最高値を抜くレベルにあって、イエレン米 FRB 議長から「株式市場は全般に割高になっている」旨の発言が出るなど、確かに絶対的株価水準に割安感が薄れた感があります。

一方で、何より米国も含め先進国金利は短期から長期までゼロに近い水準にあることを前提にすれば、株価水準は今もって充分割安ということになってしまう。つまりこれまでの株価レベルを決める物差しが全く変わってしまった時代に入したとも言えるのです。

多くの個人投資家が足元の株価上昇ペースとチャートの傾きの立ち方を見て、「上がっちゃった」「もう割高だ」といった判断をしていますが、そうした値動きではなく、これからの世界経済と金融市場の関係がどういう論拠で収束して行くのかを、仮説を立てて想定しておくべき時なのであります。

長期投資家にとって大事なのは、実体経済のこれからを見ることであり、欧州景気がゼロ金利で底入れしたことも含め、先進国経済に決して悪い環境ではないということになります。

資源価格の絶対水準も 1 年前とは前提がすっかり変わったことで、日米欧の産業全体に成長を支える新たな基礎的条件のひとつであると認識すべきで、地球経済の実体成長軌道に吹く風をフォローと捉えて、これから足元の相場がどう上下しようが全く動ぜず、「セゾン号」は粛々と進んで行くだけのことです。

中野 晴啓

今月の市場動向

世界の株式市場についての概況

5 月度の株式市場は、先進国が概ね堅調な展開となる一方、新興国で下落する国が目立ちました。

序盤から、ユーロ圏での金利上昇を受けて、株式市場は力強さを欠く展開となり、その後はイエレン米連邦準備制度理事会 (FRB) が、米国の株価は割高と発言したことが伝えられたことで、不安が拡がる局面もあったものの、米国の雇用統計が弱い結果となったことで、米国当局が利上げを急がないとの見方が強まり、安心感が拡がって上昇しました。

中盤にかけては、中国で政策金利の引き下げが打ち出されたものの、中国の経済指標が軒並み弱いものとなったことやドイツの GDP が予想よりも低い伸びに留まったことを受けて、やや軟調な展開となりましたが、その後は、米国で小売売上が引き続き弱い結果となり、米国の利上げ観測が一段と後退する中で、株式市場は堅調な展開となりました。

終盤にかけては、欧州中央銀行 (ECB) の複数の当局者が国債の購入策の継続について前向きな発言を行ったことを受けて安心感が拡がり、株式市場は堅調な展開が続きましたが、その後は、イエレン米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長の発言をきっかけに、米国の利上げ観測が高まったことから、力強さを欠く展開となりました。

5 月度の商品価格の動向

| | 終値 | 騰落率 |
|----------------------------|-----------|--------|
| NY 原油先物 (WTI/直近限月) / 1 バレル | 60.30 ドル | +1.12% |
| NY 金先物 (中心限月) / 1 トロイオンス | 1189.8 ドル | +0.54% |

全般的に景気に力強さが見られないなかで、通貨が上昇すると景気が減速する傾向が多く、多くの国や地域で見られており、各国・地域の中央銀行は、公式には否定するものの、国内の景気だけではなく、為替市場の動向にも目を配らざるを得ない状況となっています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

5 月度の市場動向について

米国株式

米国の株式市場は、上昇しました。

序盤に発表された製造業の景況感指数は予想よりも弱い結果となり、3月の貿易統計でも輸出に力強さは見られなかったものの、非製造業の景況感指数が予想外に上昇し、利上げが意識されるなかで、イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長が、米国の株価が割高という趣旨の発言を行ったことを受けて、米国の株式市場は力強さを欠く展開となったものの、その後発表された雇用統計が予想よりも弱い結果となったことを受けて、当局が利上げを急がないとの見方が強まり、上昇に転じました。

中盤には、4月の小売売上高が引き続き弱い内容となるなかで、生産者物価指数の低迷が確認されたことから、利上げ観測が一段と後退して株式市場は一段と上昇し、住宅着工件数が予想を上回る伸びとなったことから先行きへの明るい見方が拡がり、一段と上昇する局面もあったものの、その後は、イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長が年内の利上げが有力であることを示唆する発言を行ったことなどをを受けて利上げ観測が強まったほか、1-3月期のGDPが下方修正され、1年ぶりに前期比でマイナス成長となったこともあり、先行きへの不透明感が拡がり、力強さを欠く展開となりました。

5 月度の主要指数の概況

| | 終値 | 月間騰落率 |
|---------------------|----------|--------|
| ダウ・ジョーンズ工業株価平均（米ドル） | 18010.68 | +0.95% |
| S&P500（米ドル） | 2107.39 | +1.05% |
| ナスダック総合指数（米ドル） | 5070.026 | +2.60% |

米国では、小売売上高や鉱工業生産の弱い動きが続き、雇用環境も失業率こそ低いものの、不完全雇用率（職探しを諦めた人と希望労働時間に満たない就労しかできないパートタイム労働者の率）が高止まりするなど、力強さは感じられない状況となっていますが、事実上のゼロ金利政策が6年以上継続しており、ゼロ金利の長期化による副作用も懸念されることから、当局は、利上げに前向きな姿勢を示しています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

欧州株式

欧州の株式市場は上昇しました。4月末に株式市場の上昇を支援してきたユーロ圏での低い国債利回りに対して、低すぎるとの見方が台頭したことを受けて、利回りが上昇に転じ、5月に入ってから一段と上昇したことで、序盤から欧州の株式市場は下落基調となりましたが、その後は英国の総選挙でキャメロン首相率いる与党が勝利したことで、政治の安定に対する期待が高まったほか、ユーロ圏の金利の上昇が一段落したことから、反発に転じました。

中盤には、ユーロ圏の金利が再び上昇基調となるなかで、米国で弱い経済指標の発表が続きドルが下落する中で、ユーロが上昇基調となって、株式市場は下落基調となり、その後発表されたユーロ圏の1-3月期のGDPは、全体では予想通りの伸びとなったものの、ドイツの伸びが予想を下回ったことから、先行きへの明るい見方が拡がらず、力強さを欠く展開が継続しました。

終盤にかけては、欧州中央銀行（ECB）の高官が、資産購入ペースを加速させる方針を明らかにしたことを受けて、安心感が拡がると共に金利の上昇が落ち着くなかで、米国で利上げ観測が高まったことから、対ドルでユーロが下落し、株式市場は上昇基調となりましたが、その後はギリシャの債務問題を巡る不透明感が高まったこともあり、力強さを欠く展開となりました。

5 月度の主要指数の概況

| | 終値 | 月間騰落率 |
|---------------------|----------|--------|
| 独 DAX 指数（ユーロ） | 11413.82 | -0.35% |
| 仏 CAC 指数（ユーロ） | 5007.89 | -0.76% |
| 英 FT100 指数（英ポンド） | 6984.43 | +0.34% |
| スイス SMI 指数（スイスフラン） | 9237.79 | +1.77% |
| MSCI Europe 指数（ユーロ） | 135.68 | +0.78% |

ユーロ圏の1-3月期のGDPは、前期比で全体では予想通りの伸びとなり、フランスやイタリアでは予想を上回る伸びとなったものの、ドイツでは伸びが予想を下回ったほか、景況感もドイツで低迷が目立っており、ユーロ圏経済の牽引役が期待されているドイツ経済の先行きに、懸念が広がっています。

5 月度の市場動向について

販売用資料

2015.6.3

日本株式

国内の株式市場は、上昇しました。

序盤から、海外の株式市場が軟調な展開となるなかで、日本の株式市場も力強さを欠く展開となり、大型連休中もイエレン米連邦準備制度理事会（FRB）が株式市場は割高と発言したことが伝えられたこともあり、海外の株式市場の軟調な展開が続いたことから、リスクを避ける動きが強まり、連休明けの日本の株式市場も軟調な展開となりましたが、その後は落ち着きを取り戻して反発に転じました。

中盤にかけては、米国の雇用統計の弱い結果を受けた利上げの先送り観測や中国の利下げ発表を受けて、リスクを選好する動きが強まるなかで株式市場は上昇基調となり、その後も、訪日客の増加による旅行収支の黒字化などを受けて経常収支が予想以上の黒字となったことで、先行きへの明るい見方が広がり、堅調な展開が継続しました。

終盤にかけては、3月の機械受注で設備投資の先行指標となる船舶・電力を除く民需が予想を上回る伸びとなったほか、1-3月期のGDPも前期比で予想を上回る伸びとなったことから、先行きへの明るい見方が広がって、株式市場は上昇基調となり、その後は米国の利上げ観測の高まりや海外との金利差の拡大を背景に、為替市場で円安が進行したことから、上昇基調が継続しました。

5 月度の主要指数の概況

| | 終値 | 月間騰落率 |
|------------------|----------|--------|
| 日経平均株価指数（円） | 20563.15 | +5.34% |
| TOPIX[東証株価指数] | 1673.65 | +5.08% |
| MSCI Japan 指数（円） | 1030.68 | +4.99% |

1-3月期のGDPは前期比で予想を上回る伸びとなり、株式市場に好感されましたが、在庫の伸びが大きく寄与しており、個人消費や設備投資の伸びには力強さを欠く状況が続いています。

太平洋株式（日本を除く）

太平洋地域（日本を除く）の株式市場は、下落しました。

序盤から、中国で民間発表の製造業の景況感指数が下方修正され、経済的に関係の深い中国経済の先行きに対する懸念が広がるなかで、オーストラリア中央銀行が予想通り利下げを行ったものの、オーストラリアでは輸出の停滞が確認されたほか、雇用統計も弱い結果となるなかで、イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長が米国の株価が割高と発言したと伝えられたことを受けて、世界的にリスクを避ける動きが強まったこともあり、下落しました。

中盤にかけては、米国の利上げ観測が後退したほか、中国で利下げが打ち出されたことで、株式市場は堅調な展開となり、その後は中国で弱い経済指標の発表が続く、中国経済の先行きに対する懸念が強まったものの、同時に中国で金融緩和の拡大観測が高まったことから、太平洋地域の株式市場は上昇しました。

中盤以降、資源価格が軟調に推移したことなどを受けてオーストラリアの株式市場を中心に軟調な展開となり、終盤に入っても力強さを欠く展開が継続しましたが、その後は、中国で産業支援策への期待が高まっていることなどを背景に鉄鉱石価格が上昇基調となったこともあり、落ち着きを取り戻しました。

5 月度の主要指数の概況

| | 終値 | 月間騰落率 |
|-------------------------------|----------|--------|
| MSCI Pacific ex-Japan 指数（米ドル） | 1322.47 | -3.09% |
| S&P/ASX200 指数（豪ドル） | 5777.160 | -0.22% |
| 香港ハンセン指数（香港ドル） | 27424.19 | -2.52% |
| シンガポール ST 指数（シンガポールドル） | 3392.11 | -2.73% |

オーストラリア準備銀行は、2月に続いて今年2回目となる利下げを行い、政策金利は過去最低となっています。金融緩和を受けて個人消費は堅調さを維持しているものの、資源への依存度が高いオーストラリアでは、低迷する資源価格が景気の下押し圧力となっており、先行きへの不透明感が高い状況が続いています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

5 月度の市場動向について

新興国株式

新興国の株式市場は、一部の国で上昇したものの、全般的に下落基調となりました。

序盤に発表された新興国の製造業の景況感指数は低下するものが目立ち、新興国経済の先行きに対する明るい見方が広がらない中で、イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長による米国の株高を牽制する発言を受けてリスクを避ける動きが強まったことや中国で輸出入の低迷が確認されたことから、新興国の株式市場は軟調に推移しました。しかし、その後は米国の雇用統計が弱い結果となったことを受けて、米国の利上げ観測が後退したほか、中国で利下げが打ち出されたことから、底堅い展開となりました。

中盤にかけては、中国で引き続き弱い経済指標の発表が続いたほか、インドの鉱工業生産やブラジルの小売売上高も低迷が確認され、新興国経済の先行きに対する不透明感が高まって軟調な展開が続き、その後は米国で利上げ観測が後退して反発に転じたものの、力強さを欠く展開となりました。

終盤にかけては、資源価格が力強さを欠く推移となるなかで、資源輸入国の株式市場は堅調に推移したものの、資源輸出国の株式市場は軟調な推移となって、方向感の無い展開となり、その後は、米国で利上げ観測が高まったことや、中国経済の減速による影響がアジアの新興国に広がっていることが懸念されたことを受けて、軟調な展開となりました。

5 月度の主要指数の概況

| | 終値 | 月間騰落率 |
|---------------------------|----------|--------|
| MSCI Emerging 指数（米ドル） | 1004.22 | -4.16% |
| ブラジルボベスパ指数（ブラジルレアル） | 52760.48 | -6.17% |
| 中国上海指数（中国元） | 4611.744 | +3.83% |
| 韓国総合株価指数（韓国ウォン） | 2114.80 | -0.58% |
| 台湾加権指数（台湾ドル） | 9701.07 | -1.21% |
| ロシア RTS 指数（米ドル） | 968.81 | -5.88% |
| S&P/BSE SENSEX 指数（インドルピー） | 27828.44 | +3.03% |
| 南アフリカ全株指数（南アフリカランド） | 52270.86 | -3.99% |

新興国経済には力強さは感じられない状況となる中で、資源価格の低位安定が、中国やインドなどの資源輸入国に恩恵をもたらしている一方で、ブラジルなどの資源輸出国を取り巻く状況は厳しさを増してきています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

世界の債券市場についての概況

5月の債券市場は当初、ユーロ圏の国債が4月末から高値への警戒感から下落基調となった流れを引き継いで下落し、米国や日本の債券市場も軟調な展開となりました。

中盤には、米国で弱い経済指標の発表が続き、利上げ観測が後退したことや、ユーロ圏で欧州中央銀行（ECB）の高官が国債購入策を積極的に実施する姿勢を示したことで、債券市場は全般的に堅調な展開となり、終盤には米国で利上げ観測が高まったものの、全般的に景気に力強さが無く、原油価格も方向感の無い展開となったことからインフレ観測も高まらず、債券市場は堅調な展開が継続しました。

米国債券市場（国債）

米国の国債市場は下落しました。

序盤、ユーロ圏で国債の下落が続く中で、米国債も下落基調となりましたが、中盤には、小売売上高の低迷が確認されたことなどをを受けて、利上げの先送り観測が拡がり、反発に転じました。終盤には、イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長が講演で年内の利下げに意欲を示したことから、やや軟調な展開となる局面もあったものの、その後は、株式市場が軟調な展開となったことや、物価上昇観測が高まらなかったことから、堅調な展開となりました。

5 月度の長期金利の状況

| | 利回り | 前月比 |
|----------|----------|---------|
| 米 10 年国債 | 2.121%付近 | +0.090% |

欧州債券市場（国債）

ユーロ圏では、主要国と周縁国の国債が共に下落しました。

当初、ユーロ圏では4月に高値警戒感から下落した流れを引き継いで、主要国と周縁国の国債が共に下落基調となり、その後もギリシャの財政問題を巡る懸念が高まりつつあることを受けて軟調な展開が継続しましたが、中盤以降は、欧州中央銀行（ECB）の高官が国債購入策を積極的に実施する姿勢を示したことで、安心感が拡がり、堅調な展開となりました。

5 月度の長期金利の状況

| | 利回り | 前月比 |
|----------|----------|---------|
| 独 10 年国債 | 0.487%付近 | +0.121% |

日本債券市場（国債）

日本の国債市場は下落しました。

序盤から中盤にかけては、ユーロ圏の国債が一段と下落する中で、日本国債も軟調な展開となりましたが、以前とは異なり日本国債の利回りが海外と比べて著しく低い状況ではないことから、日本国債への需要は根強く、中盤以降は底堅い展開となりました。

5 月度の長期金利の状況

| | 利回り | 前月比 |
|----------|----------|---------|
| 日 10 年国債 | 0.394%付近 | +0.052% |

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

5 月度の市場動向について

世界の為替市場についての概況

米国で発表された経済指標はまちまちの内容となり、景気の停滞への懸念が強まっているものの、終盤に利上げが意識されドルが上昇しました。ユーロは、欧州中央銀行（ECB）の高官が国債購入策を積極的に実施する姿勢を示したことやギリシャの財政問題を巡る不透明感が高まっていることから、軟調な展開となりました。円はユーロ圏で大きく低下していた国債利回りが反発に転じたことや米国で利上げ観測が高まったことを受けて、金利差による下落圧力が高まるなかで、原油価格の底打ちや輸出の伸びの低迷による貿易赤字の拡大懸念が高まったことから、下落しました。

ドル・円

円はドルに対して、下落しました。

序盤、米国の利上げ観測がやや高まり、ドルが上昇基調となったことで、円は対ドルで軟調な展開となりましたが、その後は米国で弱い経済指標の発表が続き、利上げ観測が後退してドルが下落したことから、円は対ドルで上昇しました。

中盤以降は、再び米国の利上げ観測が高まってドルが反発に転じたほか、貿易収支が再び赤字となり貿易赤字の拡大懸念が高まったことから、円は対ドルで下落基調となり、終盤には米国の利上げが意識される中で、さらに円安が進行しました。

ユーロ・円

円はユーロに対して、下落しました。

中盤まで、米国の利上げ観測の後退を受けてドルが下落基調となるなかで、ユーロが上昇したことから、円は対ユーロで下落基調となりました。中盤以降は、欧州中央銀行（ECB）の高官が国債購入策を積極的に実施する姿勢を示したことやギリシャ問題を巡る不透明感が高まったことを受けてユーロが下落し、円は対ユーロで上昇する局面もあったものの、その後は貿易赤字の拡大懸念などを背景に円が下落し、再び対ユーロで円安基調となりました。

5 月度の概況

| | レート* | 月間騰落率 |
|--------|--------|---------------|
| 円／ドル | 124.17 | +4.01% (円安) |
| 円／ユーロ | 136.48 | +1.87% (円安) |
| ユーロ／ドル | 1.0992 | -2.06% (ユーロ安) |

*レートは月末の米国東部標準時間 17 時のものです。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」
運用概況 (2015年5月29日現在)

今月のマーケットと投資スタンス

【株式市場】ユーロ圏や中国の金融緩和策に下支えされる一方、米国の利上げへの警戒が強まり、力強さを欠く展開。

【債券市場】ユーロ圏の国債は高値への警戒が高まり引き続き下落。米国債も利上げ観測を背景にやや軟調な展開。

【為替市場】利上げが意識されたドルが上昇する一方で、金融緩和期待などを背景にユーロが下落。円も下落し、対ドルでは大幅な円安。

【投資スタンス】当ファンドは、定期積立プランでの購入などにより、皆様からお預かりした資金を利用して、定められた投資比率に従って株式ファンド及び債券ファンドへの投資を行いました。

ファンドマネジャーからの一言

今月は、国債に投資するファンドが全て下落し、特に欧州国債に投資するファンドが大きく下落したほか、株式に投資するファンドも太平洋地域や新興国に投資するファンドが下落したことから、投資先ファンドが基準価額の下落要因となりました。為替は、対ドル、対ユーロで円安となり、特に対ドルで大幅な円安となったことから、基準価額の上昇要因となりました。結果、当ファンドの基準価額は上昇しました。

当ファンドでは引き続き、将来への予測に依存することなく幅広く投資を行うことでリスクを分散しながら、皆様の長期的な資産形成に資することが出来るよう努めて参ります。

※変動要因については、右側の図1、図2もご参照下さい。

※ファンドの基準価額は原則として2営業日前の株式・債券市場の終値を反映しています。

運用部 瀬下 哲雄

図1 5月度の投資先ファンド価格の変動による影響
※月末の投資比率に基づく概算値/投資先ファンド通貨建て

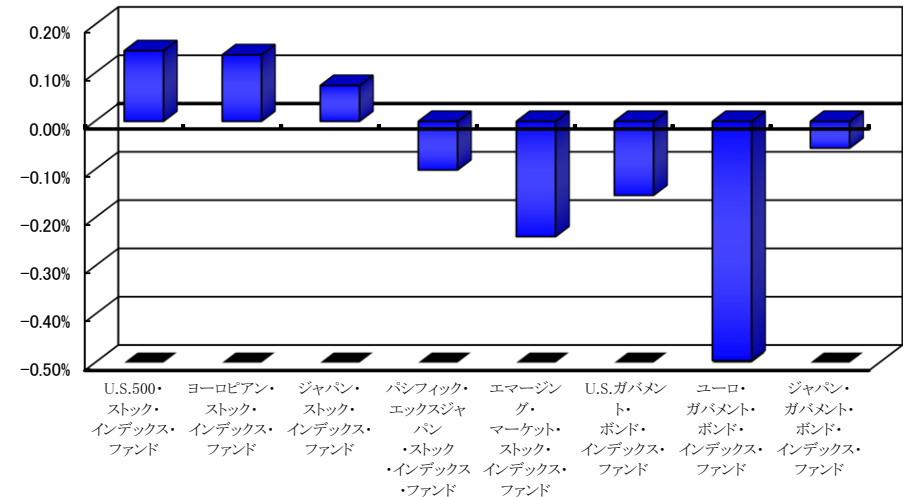
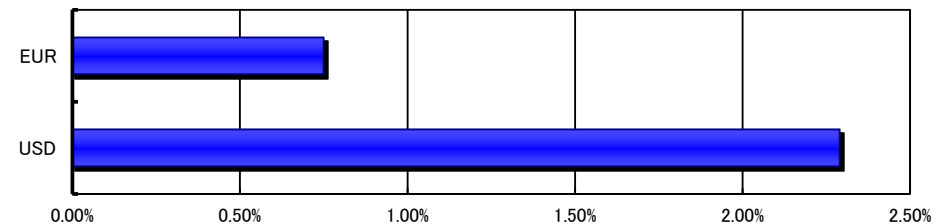


図2 5月度の為替変動による影響
※月末の投資比率に基づく概算値



※上記の表は、投資家の皆様へファンド基準価額の変動要因を簡潔に説明するため2015年5月29日現在の投資比率に基づき、ファンド及び為替レートの変動の影響を図示したものであり、実際の影響度合いとは異なります。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 5 月度運用レポート

販売用資料
2015.6.3

I : ファンドの基準価額と純資産総額の推移

2015 年 5 月 29 日現在の基準価額と純資産総額及び騰落率

| | |
|-------|----------|
| 基準価額 | 14,068円 |
| 純資産総額 | 1024.4億円 |

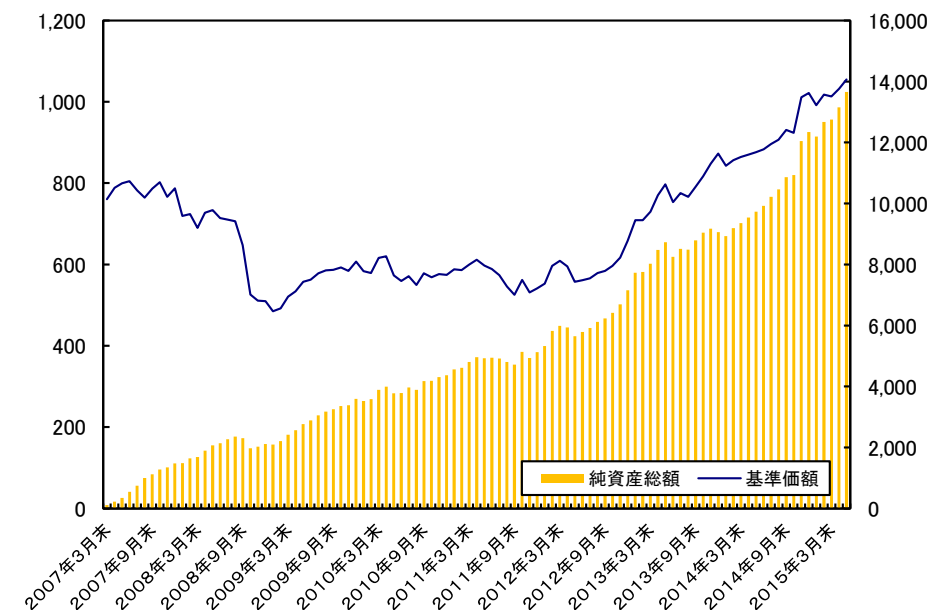
| | |
|------------|--------|
| 設定来騰落率 | 40.68% |
| 過去1ヶ月間の騰落率 | 2.26% |
| 過去6ヶ月間の騰落率 | 4.31% |
| 過去1年間の騰落率 | 20.48% |
| 過去3年間の騰落率 | 89.34% |

*基準価額は信託報酬控除後の数値です。騰落率は小数点第3位を四捨五入しています。

基準価額のハイライト（設定から 2015 年 5 月 29 日まで）

| | 基準価額 | 日付 |
|-------|--------|------------|
| 設定来安値 | 6,275 | 2009年1月26日 |
| 設定来高値 | 14,068 | 2015年5月29日 |

純資産総額(億円) 基準価額と純資産総額の推移(設定来/月次) 基準価額(円)



当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 5 月度運用レポート

販売用資料
2015.6.3

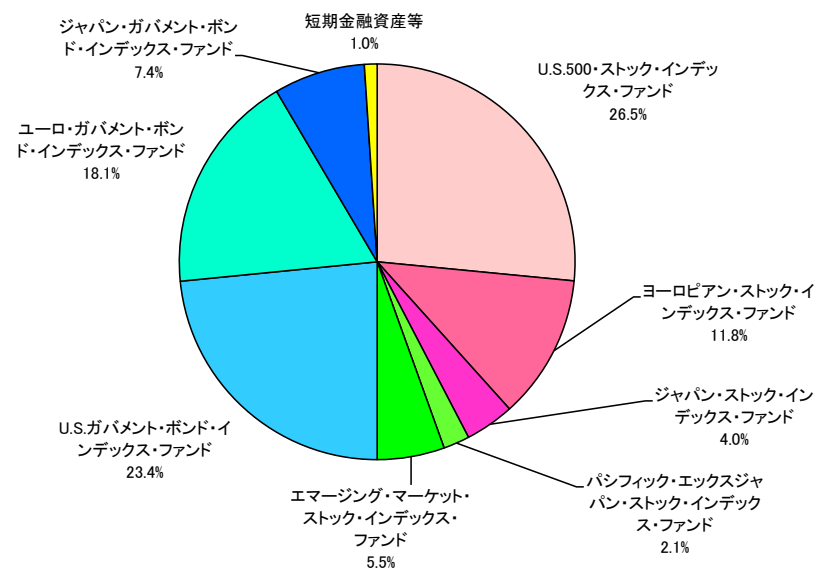
Ⅱ：ファンド資産の状況（2015年5月29日現在）

投資先ファンド別資産配分状況

| ファンド名称 | 比率 |
|---------------------------------|--------|
| U.S. 500・ストック・インデックス・ファンド | 26.5% |
| ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド | 11.8% |
| ジャパン・ストック・インデックス・ファンド | 4.0% |
| パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド | 2.1% |
| エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド | 5.5% |
| U.S. ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 23.4% |
| ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 18.1% |
| ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 7.4% |
| 短期金融資産等 | 1.0% |
| 合計 | 100.0% |

※資産配分状況は小数点第2位を四捨五入している為、合計が100%にならない場合があります。

資産配分状況(2015年5月29日現在)



当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 5 月度運用レポート

販売用資料
2015.6.3

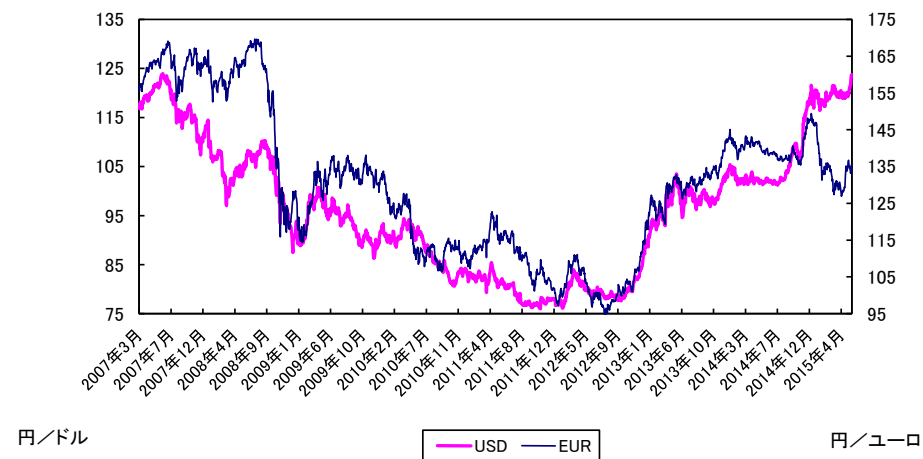
Ⅲ：為替レートの推移

設定時からの為替レート

| 日付 | 円／ドル | 円／ユーロ |
|-------------|--------|---------|
| 2007年3月15日 | 117.27 | 155.09 |
| 2007年12月28日 | 114.15 | 166.66 |
| 2008年12月30日 | 91.03 | 127.96 |
| 2009年12月30日 | 92.10 | 132.00 |
| 2010年12月30日 | 81.49 | 107.90 |
| 2011年12月30日 | 77.74 | 100.71 |
| 2012年12月28日 | 86.58 | 114.71 |
| 2013年12月30日 | 105.39 | 145.05 |
| 2014年12月30日 | 120.55 | 146.54 |
| 2015年1月30日 | 118.25 | 133.88 |
| 2015年2月27日 | 119.27 | 133.65 |
| 2015年3月31日 | 120.17 | 130.32 |
| 2015年4月30日 | 119.00 | 132.29 |
| 2015年5月29日 | 123.73 | 135.61 |
| 変化率 (設定来) | 5.51% | -12.56% |
| 変化率 (5月度) | 3.97% | 2.51% |

※変化率はプラスが円安、マイナスが円高。小数点第3位を四捨五入

2007年3月15日から2015年5月29日までの為替レートの推移



※投資信託協会発表の評価用為替レートを使用して作成しています。

当ファンドは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

IV：投資先ファンドの価格（円貨建て）

① 主に株式へ投資するファンドの値

ファンドへの組入れ開始日の値を 100 とした場合の 2015 年 5 月 29 日現在の値

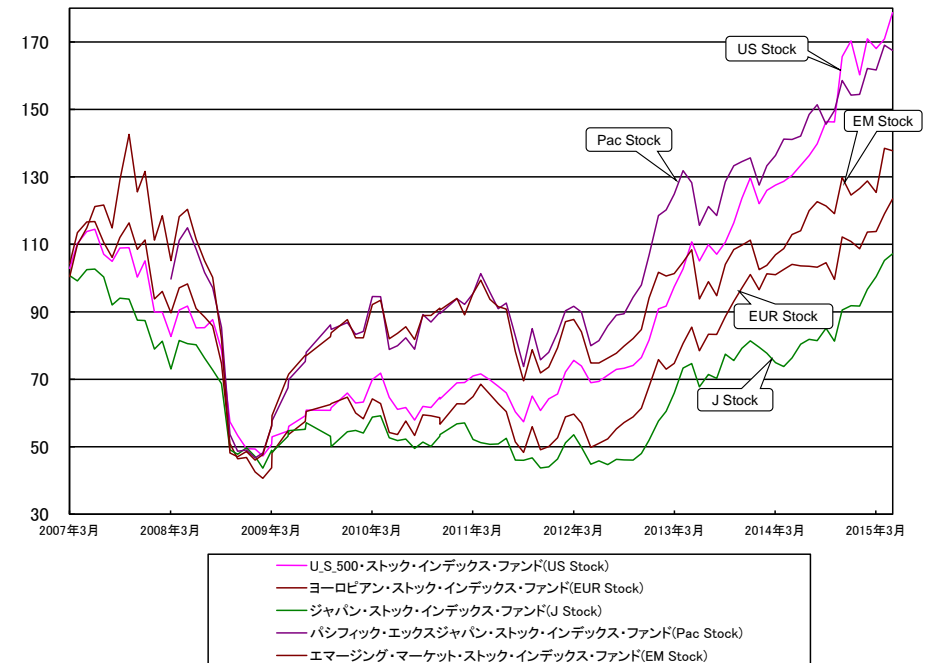
| | |
|---------------------------------|-------|
| U. S. 500・ストック・インデックス・ファンド | 178.7 |
| ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド | 123.4 |
| ジャパン・ストック・インデックス・ファンド | 107.2 |
| パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド | 167.5 |
| エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド | 137.8 |

2015 年 4 月 30 日の値を 100 とした場合の 2015 年 5 月 29 日現在の値（5 月の動き）

| | |
|---------------------------------|-------|
| U. S. 500・ストック・インデックス・ファンド | 104.5 |
| ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド | 103.7 |
| ジャパン・ストック・インデックス・ファンド | 101.8 |
| パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド | 99.1 |
| エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド | 99.5 |

※指数は小数点以下第 2 位を四捨五入

組入れ開始以来の投資先株式ファンドの値の推移（円貨建て）



エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド、ジャパン・ストック・インデックス・ファンドは 2007 年 3 月 23 日、パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンドは 2008 年 3 月 14 日、それ以外のファンドは 2007 年 3 月 19 日の値を 100 として算出しています。価格が外貨建てのファンドは、投資信託協会発表の評価用為替レートを利用して円に換算し、指数を算出しています。（日付は全て当ファンドでの評価日付です。）

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド
5 月度運用レポート販売用資料
2015.6.3

② 主に債券へ投資するファンドの値

ファンドへの組入れ開始日の値を 100 とした場合の 2015 年 5 月 29 日現在の値

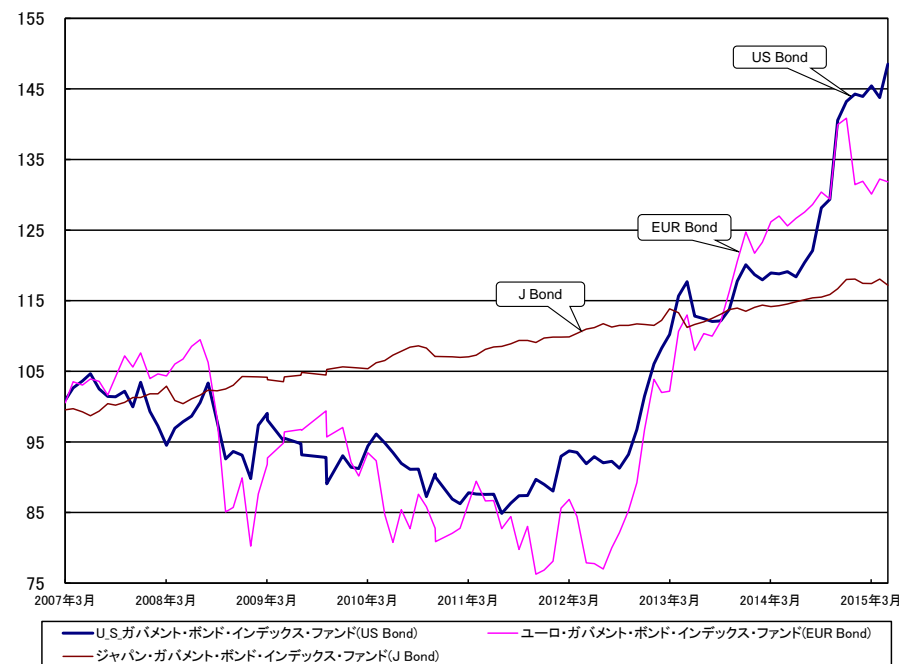
| | |
|----------------------------|-------|
| U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 148.5 |
| ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 131.8 |
| ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 117.2 |

2015 年 4 月 30 日の値を 100 とした場合の 2015 年 5 月 29 日現在の値（5 月の動き）

| | |
|----------------------------|-------|
| U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 103.3 |
| ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 99.7 |
| ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド | 99.3 |

※指数は小数点以下第 2 位を四捨五入

組入れ開始以来の投資先債券ファンドの値の推移（円貨建て）



ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンドは 2007 年 3 月 23 日、それ以外のファンドは 2007 年 3 月 19 日の値を 100 として算出しています。価格が外貨建てのファンドは、投資信託協会発表の評価用為替レートを利用して円に換算し、指数を算出しています。（日付は全て当ファンドでの評価日付です）

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 5 月度運用レポート

■ファンドの特色

- ①幅広いリスク分散
世界 30 ヶ国以上の株式と 10 ヶ国以上の債券に分散投資。だからリスクを分散して安定的な成果が期待できます。
- ②国内最低水準の手数料
販売手数料ゼロ。購入時に余分なコストのかからないノーロードファンドです。同じタイプのファンドの中では国内最低水準の手数料を目指しました。
- ③バンガード・グループのファンドに投資するファンド・オブ・ファンズ
バンガード・グループは世界最大級の投信会社です。また、ローコスト・ハイクオリティ運用のリーダーとして認められています。投資家の利益を守るため、長期投資の重要性を訴え続けています。
- ④長期投資の為のファンド
長期のパフォーマンスを最優先するため、分配金は全て再投資します。

■投資方針

- ①株式と債券の投資比率は、原則として 50 : 50 とします。
 - ②各地域の株式及び債券の時価総額を勘案し、投資先ファンドへの投資配分を決定いたします。配分比率は適宜見直しを行っていきます。
 - ③原則として、為替ヘッジは行ないません。
- ※資金動向、市場動向ならびに信託財産の規模等によっては上記の運用が出来ないこともあります。

「Vanguard」(日本語での「バンガード」を含む)及び「tall ship logo」商標は、The Vanguard Group, Inc. が有し、セゾン投信株式会社及び承認された販売会社にのみ使用許諾されたものです。また「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」は、The Vanguard Group, Inc. 及び Vanguard Investments Japan Ltd より提供、保証又は販売されるものではなく、また投資に関する助言を受けていることを表すものでもありません。従って、The Vanguard Group, Inc. 及び Vanguard Investments Japan Ltd は当ファンド・オブ・ファンズの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

■組入れファンドについて

- ①U.S.500・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：米国の大型株式に投資します。
運用方針：S&P500 Index に連動する投資成果を目指します。
- ②ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：欧州先進国の株式に投資します。
運用方針：MSCI Europe Index に連動する投資成果を目指します。
- ③ジャパン・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：日本の株式に投資します。
運用方針：MSCI Japan Index に連動する投資成果を目指します。
- ④パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：日本を除くアジア太平洋地域の先進国の株式に投資します。
運用方針：MSCI Pacific ex-Japan Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑤エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：新興諸国の株式に投資します。
運用方針：MSCI Emerging Markets Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑥U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
主要投資対象：米国の国債および米国の政府系機関が保証発行する投資適格債券等に投資します。
運用方針：Barclays Global Aggregate U.S. Government Float Adjusted Bond Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑦ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
主要投資対象：EMU(経済通貨同盟)に加盟するユーロ建ての国債等に投資します。
運用方針：Barclays Global Aggregate Euro Government Float Adjusted Bond Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑧ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
主要投資対象：日本国債および日本の政府系機関が保証発行する投資適格債券等に投資します。
運用方針：Barclays Global Aggregate Japan Government Float Adjusted Bond Index in JPY に連動する投資成果を目指します。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 5 月度運用レポート

■お申込みメモ

- お申込受付日：原則として、毎営業日にお申込を受付けます。ただし、ニューヨーク、アイルランドの銀行休業日、ニューヨークの証券取引所休業日のいずれかに該当する日には受付を行いません。
- お申込受付時間：原則として、午後 2 時までに受付けた申込みを当日の申込みとします。
- お申込価額：取得申込日の翌々営業日の基準価額
(当初元本は、1 口あたり 1 円)
- お申込単位：1 万円以上、1 円単位
定期積立プランの場合は 5 千円以上 1 千円単位
- お申込手数料：ありません
- ご解約受付日：原則として、毎営業日にご解約の請求を受付けます。ただし、ニューヨーク、アイルランドの銀行休業日、ニューヨークの証券取引所休業日のいずれかに該当する日には受付を行いません。
- ご解約請求受付時間：原則として、午後 2 時までに受付けた解約請求を当日の請求とします。
- ご解約単位：1 口以上、1 口単位
- 解約代金のお支払い：原則として、解約請求受付日から起算して 6 営業日目にお支払いします。
- 解約価額：解約請求受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額。
- 信託財産留保額：0.1%
- 信託設定日：2007 年 3 月 15 日
- 信託期間：無期限
- 決算日：毎年 1 月 2 月 1 0 日（休業日の場合は翌営業日）
- 収益分配：決算時（年 1 回）に収益分配方針に基づき、分配を行います。（基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行わないことがあります。）当ファンドは分配金再投資専用のため、分配金は税金を差し引いた後、自動で再投資いたします。
- 課税関係：収益分配時の普通分配金ならびにご解約時および償還時の譲渡益相当額（法人の場合は個別元本超過額）に対して税金※が課せられます。
※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。税法等が改正された場合には、上記内容が変更になる場合があります。

■当ファンドに係るリスクについて

当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、主として投資信託証券に投資を行います。当ファンドは、株式や公社債を実質的な主要投資対象としており、株式や公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また当ファンドは外貨建資産に投資し、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を受け、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」や「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド
5 月度運用レポート

■当ファンドに係る手数料等について

お客様には以下の費用をご負担いただきます。

◆申込時に係る費用

申込手数料はかかりません。

◆解約時に係る費用

解約手数料はかかりません。なお、解約受付日の翌々営業日の基準価額に対して 0.1%の信託財産留保額が控除されます。

◆保管期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬

ファンドの純資産総額に年 0.5076% (税抜 0.47%) の率を乗じて得た額とします。その他投資対象である投資信託証券において信託報酬がかかります。当該信託報酬も間接的に受益者の方にご負担いただく費用となりますので、実質的な信託報酬は、年 0.74%±0.03% (概算) となります。

その他費用

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 (有価証券の売買の際に発生する手数料や、有価証券の保管に要する費用等を含む)、監査報酬 (消費税含む) および立替金の利息等が信託財産の中から差し引かれます。なお、当該その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に計算方法、上限額等を示すことが出来ません。

当該手数料の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。

ダウ・ジョーンズ工業株価平均、S&P500、S&P/ASX200 指数、S&P/BSE SENSEX インド指数は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス (S&P DJI) の商品です。これらの指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、S&P DJI に帰属します。

S&P DJI は当指数等の情報に関し、その正確性・妥当性・完全性あるいは入手可能性を保証しません。また、S&P DJI は当指数等の情報の誤り、欠落についてその理由のいかんにかかわらず責任を負いません。また当指数等の使用による結果に対しても責任を負うものではありません。S&P DJI は当指数等の商品性あるいはその使用または特定の目的に対する適合性を含みますが、それに限定されるわけではなく、一切の明示的あるいは黙示的な保証を否認します。S&P DJI はファンドの受益者や他の人物等による当指数等の使用に関連したいかなる間接的、直接的な、特別なあるいは派生的な損害、費用、訴訟費用あるいは損失 (収入の損失、利益の損失、機会費用を含む) について一切の責任を負いません。

セゾン投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 349 号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会

<http://www.saison-am.co.jp/>

お客様窓口 : 03-3988-8668 (受付時間 9:00~17:00 土日祝日、年末年始除く)

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。